

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立久留米西高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)＝事務局長、教務部員1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画課（室）長、主幹教諭(教務主任)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導主任) 主任教諭(1学年担当)、主任教諭(2学年担当)、主幹教諭(3学年担当)、主幹養護教諭（保健主任） 計10名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(大学教授)、PTA会長、厚生労働省職員、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長、近隣学習塾経営者、近隣青少年育成会、市教育委員会、警察署員 計10名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和6年5月17日（金曜）内部委員10名、協議委員7名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題

本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和6年10月25日（金曜）内部委員10名、協議委員9名

授業公開、これまでの教育活動に関する報告

協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和7年2月7日（金曜）内部委員10名、協議委員10名

授業公開、これまでの教育活動に関する報告

協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年10月25日（金曜）内部委員2名、協議委員3名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察

今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和7年2月7日（金曜）内部委員2名、協議委員3名

今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・11月 全校生徒 対象：675人 回収：129人 回収率：19%

・12月 保護者全員 対象：675人 回収：105人 回収率：16%

・12月 地域・住民 対象：72人 回収：34人 回収率：47%

・12月 教職員 対象：39人 回収：39人 回収率：100%

- (3) 主な評価項目

・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定する。

（平成30年度以降は「ライフ・ワーク・バランスの推進」に関する評価項目についても設定すること。）

- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

「久留米西高校に入ってよかったか」

肯定的な回答は、生徒81%（前年比－4%）、保護者88%（同－5%）であった。生徒は前年より満足度は増加し、保護者の満足度は減になった。生活指導を丁寧に行うことにより基本的な生活習慣も向上している。また、大学進学希望者の増加に伴いその対応が求められている。

この設問は学校にとっても、生徒にとっても最も重要なものである。この評価結果を真摯に受け止

め、その要因と今後の教育方針、将来像を全教員が考えていく必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

「教育目標や教育方針が日頃の教育に生かされているか」

肯定的な回答は、生徒80%（同±0%）、保護者73%（同－9%）であり、少しずつであるが周知されていると思われる。始業式等では、教育目標を講和の中で触れ、生徒は聞く機会は多くなっている。今後は、教育目標や教育方針が達成されるための教育活動を生徒及び保護者に知ってもらうとともに、教職員は達成のため、重点目標をより分かりやすくし、より生徒が変容する指導方針を考え、日々の教育活動を進めていく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。

- ・学級通信や連絡帳などの記入について工夫が必要であることが分かった。※特別支援学校の例

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校の教育機能をより一層活用したいと望んでいることが分かった。

- ・地域の人材活用を一層推進するとともに公開講座等の拡大・充実が必要である。

- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学習活動

「家庭学習の時間を1時間以上持っているか」「学習時間」については、生徒の肯定的な回答は29%（同－6%）。生徒は家庭学習1時間以上の割合は昨年度と同じく減少した。03年度まで増加していたが、昨年と同じく減少した。朝学習や週末課題など学習支援アプリを活用する取り組みを推奨している。一昨年から新入生一人1台端末が納入され、タブレット端末を利用する授業も多くなっている。宿題を出している教科もある。

「意欲的に授業に取り組んでいるか」生徒の肯定的な回答は87%（同±0%）とある。毎時間の授業では、集中して取り組んでいる姿も見られる。指導については、丁寧な指導をしている、興味関心を満たすような授業を心がけている。授業評価アンケートを実施し、教員は授業の振り返りをして授業改善に努めている。1学年においては、基礎部分の学びなおしが必要な生徒もいるため、少人数や習熟度別の授業で対応している。また、より高度な内容を学びたいという生徒もいるため、レベルアップ講習や夏期講習などで補っていく。全教員による組織的な対応を推進していく必要がある。

(2) 生活指導

「文化祭、体育祭などの学校行事」肯定的な回答は、生徒89%（同＋1%）、保護者88%、（同±0%）、教員74%（同＋8%）と生徒は増加した。令和5年度からは感染症の制限もなく行事を実施できている。今年度は、さらに、改善し中学生や保護者の来校など以前と変わらぬ行事運営がこのような結果となったと思われる。

「部活動に積極的に取り組んでいるか」生徒62%（同－12%）、であった。本校部活動もコロナ禍に比べ活発になっている。ただ、部活動加入率は、以前と比べ1年生が低く今後の部活動の活性化が課題になる。外部指導員を2名増員し7名体制となった。技術指導なども確立してきており、今後も施設の充実が課題である。

「校外においても社会のルールを守っているか」生徒No.16 保護者No.13 教員No.13

肯定的な回答は、生徒98%（同＋3%）、保護者92%（同－3%）、教員95%（同±0%）であり、三者とも9割前後と高評価である。本校は生活指導を丁寧に行うことにより学校が変わってきた。そして多くの生徒、保護者から評価されている。また、地域からはここ数年で落ち着いたとの評価も多い。一方、一部の生徒、保護者から生活指導が厳しすぎるという意見もある。また、地域からは依然として自転車の交通マナーが悪いという意見もある。生徒、保護者、地域の意見も真摯に受け止めながら、今後も丁寧な説明と指導を継続していくことが重要である。

(3) 進路指導

「進路指導が丁寧に行われているか」保護者 71% (同一 9%) であった。生徒の回答からは、同質問に対しては 89% となっている。類似する質問では、「進路希望に応じた授業が充実しているか」「進路ガイダンスなど進路について考えられる機会があるか」の回答は高い割合を占めている。本校は大学、専門学校、就職と多様な進路希望に対応するため、1 年次からキャリア教育を行っている。肯定的な割合はそれなりに高い。大学短大進学希望者も増加傾向にあり 50% を超えた。それに伴い大学進学に向けての指導の充実が求められてきている。

今後も生徒の進路希望や本校の将来像をみつめた上で、進路指導部が中心となった継続性のある指導、データに基づいた指導、そして生徒、保護者への適切な情報提供と情報の共有化をより一層図っていくことが重要である。保護者会や進路の面接以外でも保護者に進路の情報が伝わるような工夫が必要である。

「進路情報の提供をしているか」保護者の肯定的な回答は 71% (同一 1%) 教員 97% (同 ± 0%) であった。今後も生徒の進路希望や本校の将来像をみつめた上で、進路指導部が中心となった継続性のある指導、データに基づいた指導、そして生徒、保護者への適切な情報提供と情報の共有化をより一層図っていくことが重要である。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9 人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2	4			2	

7 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。